

# 古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問二五（出典：『十訓抄』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。同色の助詞は同内容を示す。）

大納言行成卿、未だ殿上人にておはしける時、実方中将、いかなる憤りがありけん（※1）、殿上に参り（※2）会ひて、言ふこともなく、行成の冠を打ち落として、小庭に投げ捨てけり。行成、少しも騒がずして、主殿司を召して、「冠取りて参れ」とて、冠して、守刀より筭抜き取りて、鬢かい繕ひて、居直りて、「いかなることにて候ふやらん（※3）。忽ちにかうほどの乱罰に与るべきことこそ覚え侍らね。その故を承りて、後のことにや侍るべからん」と、ことうるはしく言はれけり。実方は白けて逃げにけり。

折しも小菰より、主上御覧じて、「行成はいみじき者なり。かくおとなしき心あらん」とこそ思はざりしか」とて、そのたび蔵人頭空きたりけるに、多くの人を越えてなされにけり。実方をば中将を召して（※4）、「歌枕見て参れ」とて、陸奥守になしてぞ遣はされける。

- ※1：「疑問語く推量系十、」は挿入句である。ここは筆者の感想や主張であって、実方の思いではない。
- ※2：敬意の対象は殿上となるが、殿上は宮中にあり、その宮中は帝の持ち物であるため、帝への敬意となる。
- ※3：「やらん」「にやあらむ」「にかあらむ」の際、「に」は断定、「む」は推量確定である。
- ※4：「召す」は尊敬語で「お呼びになる」「召しあがる」「お乗りになる」の他、「取り上げなされる」とも訳す。

◎現代語訳（『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）